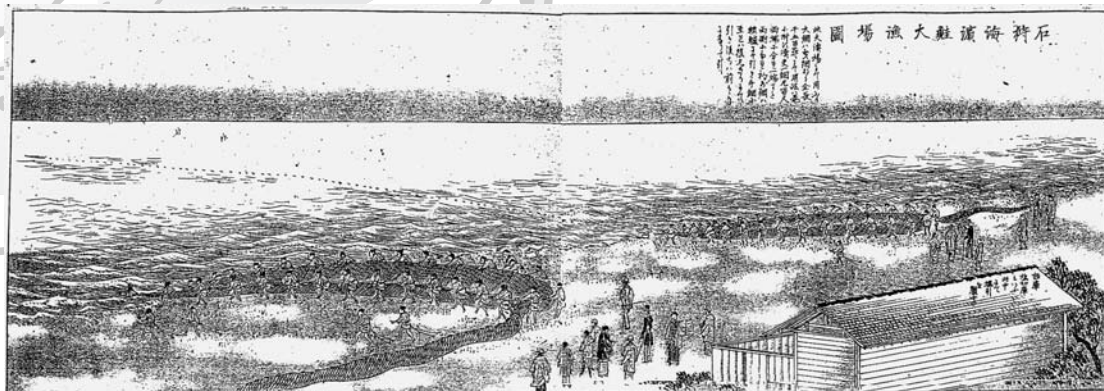


石狩観光のはじまり



最近、盛んに取り上げられている「石狩鍋」ですが、「石狩鍋」が広まった背景には、石狩の観光ブームがあったことは、意外に知られていません。昭和20年代後半に、石狩川河口で行われていた鮭地引網漁の見学ツアーが人気を集め、この時観光客になつたのが、「石狩鍋」が全国に広まるきっかけとなりました。

実は、石狩の鮭漁観光は、明治時代にさかのぼります。明治21年10月の北海道毎日新聞379号には、鮭漁を見物しやすいう漁場や札幌からの交通機関、旅館、はては夜の遊び場まで紹介されています。

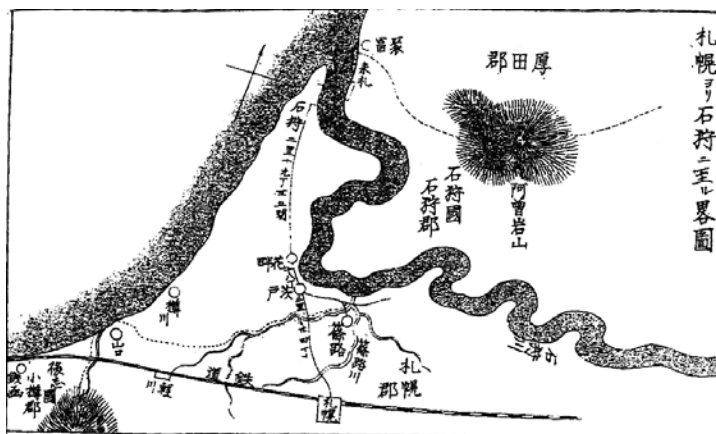
明治27年の『風俗画報』では、石狩の鮭漁の様子がイラスト入りで伝えられています。筆者が、自宅を人力車で出発し、茨戸を経由して石狩に到着するまでが、具体的に距離と時間を挙げてリポートされており、現代の旅行番組そっくりです。

明治32年の『札幌案内』にも鮭の漁期、鮭の漁の見所、主な旅館、札幌からの交通が紹介されています。これはいづれも、札幌からの距離、宿泊の便、交通機関が明記されており、観光客向けを意識して書かれたことが分かります。

では、なぜ石狩の鮭漁が、明治時代から注目されていたのでしょうか。石狩の鮭地引網漁は、江戸時代から行われており、蝦夷地ならではの豪快な漁として本州にも知られていました。明治時代になっても蝦夷地のイメー

ジが強い鮭地引網漁へ関心があったようです。

江戸時代から続く、石狩と鮭のイメージの結びつきこそ、北海道の小さな町だった石狩町で生まれた「石狩鍋」が、瞬く間に全国に広まった理由の一つでした。



参考文献

狩野信平『札幌案内』1899年
鈴木トミエ編『新聞に見る石狩・厚田・浜益歴史年表』2007年
関場梅屋『石狩観鮭漁の記』『風俗画報』第70、73号・1894年

■文化財課・いしかり砂丘の風資料館
☎62-3711
✉bunkazaih@city.ishikari.hokkaido.jp